



第193号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 臨試験の立案運営に関するグループワークを開催
- ③ 平成29年度京大病院臨床懇話会
- ④ 校友会・KMS・FUNDにより
- ⑤ 西日本医科学学生総合体育大会
- ⑥ 支部だより 福井 愛媛
- ⑦ 支部だより 京都 三重 徳島
- ⑧ 支部だより 奈良 滋賀
- ⑨ 人事異動・会員計報

新年のごあいさつ

芝蘭会会長
医学研究科長・医学部長
上本 伸一

教育研究体制を構築し、「学部から医学・医療の基礎を修得した世界トップレベルの高度医療専門職を養成すること」とし、平成29年度から大幅な組織改革と入試改革を断行しました。すなわち、現行の4専攻（看護科学コース、検査技術科学コース、理学療法科学コース、作業療法科学コース）から、「先端看護科学コース」、「先端看護科学コース」、「総合医療科学コース」、「総合医療科学コース」

科（医学専攻、社会健康医学系専攻）、iPS細胞研究所、ウィルス・再生医科学研究所、薬学研究科、生命科学研究所等の教員が、兼担で学部学生教育を担うことにより、世界トップレベルの研究者育成、および新たな医療専門職の養成を目指します。

人材の育成は、海外に比較して遅れているのが日本の現状であり、人間健康科学系専攻から、多くの優秀な人材が輩出されることが期待されます。

医学物理学分野で養成する医学物理士は、工学系・情報系との異分野融合による極めて専門的な学問であり、医学物理士資格を持つ人材を育成することによって、産業界との連携による医療技術開発・機器開発、諸外国との共同研究等を行うことが可能となります。

最後に、大変おめでとうございます。報告いたします。京都大学名誉教授の成宮周先生と坂口志文先生が昨年に文化功労者に選出されました。成宮先生と坂口先生は、益々のご活躍と後進のご指導をお願いする次第でございますが、さらに若い世代の芝蘭会会員の皆さまの大きな飛躍を祈念いたします。



明けておめでとうございませう。以前の芝蘭会報でお約束していたように、今回は人間健康科学系・人間健康科学系専攻の改革についてお話しします。平成29年度から入試制度が変わり、新規入学者に対する教育体制も大きく変わりましたので、人間健康科学系専攻長の足立壯二教授のご支援を得ながら新年のあいさつを作成いたしました。

「先端リハビリテーション科学コース」の3コースへと再編し、学部から大学院まで一貫した教育システムを構築しました。高度医療専門職や世界レベルの研究者育成の素地を養い、大学院への進学率を向上させるべく、学部学生の定員を平成29年度から100名に変更しました。さらに、その100名のうち一般入試による募集を70名とし、従来の専攻別入試を二括入試に変更し精鋭化しました。

学部教育カリキュラムにおいては、1回生から2回生前期は医療の基礎的知識を深めるため各コースに共通する教育を行い、2回生後期以降は各人が希望するコース（先端看護科学コース、先端看護科学コース、総合医療科学コース、先端リハビリテーション科学コース）へと進みます。先端リハビリテーション科学コースへ進級した学生は、3回生前期に理学療法科学講座や作業療法科学講座を受けることになり、さらに医学研究科、iPS細胞研究所、ウィルス・再生研究所等の協力講座の研究室に人間健康科学系専攻の修士学生として進学することが可能となります。

「先端リハビリテーション科学コース」に新設された医療ビッグデータ分野、医学物理学分野、臨床開発運営学分野では以下の展望を持っています。医療ビッグデータ分野は、医療ビッグデータ解析、臨床ゲノム解析に基づくゲノム医療およびビッグデータ医科学、臨床バイオIT等に精通する医療ビッグデータサイエンティスト人材を育成する分野であり、日本では初めての専門分野です。スーパーコンピュータを用いた人工知能技術の発展が目覚ましい中、医学・医療の知識のあるIT

人材の育成は、海外に比較して遅れているのが日本の現状であり、人間健康科学系専攻から、多くの優秀な人材が輩出されることが期待されます。

最後に、大変おめでとうございます。報告いたします。京都大学名誉教授の成宮周先生と坂口志文先生が昨年に文化功労者に選出されました。成宮先生と坂口先生は、益々のご活躍と後進のご指導をお願いする次第でございますが、さらに若い世代の芝蘭会会員の皆さまの大きな飛躍を祈念いたします。

人間健康科学系専攻を改革

平成25年度の国立大学改革において、京都大学医学研究科では「世界トップレベルの先端医療技術の開発および臨床ワールドにおける実践の追求を通じ、世界レベルの研究を牽引する研究者の養成」とのミッションを掲げています。人間健康科学科（学部）および人間健康科学系専攻（大学院）においてもミッションの再定義を行い、iPS細胞研究、薬学、生命科学、情報、工学と医学を融合した医療開発における

「先端リハビリテーション科学コース」の3コースへと再編し、学部から大学院まで一貫した教育システムを構築しました。高度医療専門職や世界レベルの研究者育成の素地を養い、大学院への進学率を向上させるべく、学部学生の定員を平成29年度から100名に変更しました。さらに、その100名のうち一般入試による募集を70名とし、従来の専攻別入試を二括入試に変更し精鋭化しました。

学部教育カリキュラムにおいては、1回生から2回生前期は医療の基礎的知識を深めるため各コースに共通する教育を行い、2回生後期以降は各人が希望するコース（先端看護科学コース、先端看護科学コース、総合医療科学コース、先端リハビリテーション科学コース）へと進みます。先端リハビリテーション科学コースへ進級した学生は、3回生前期に理学療法科学講座や作業療法科学講座を受けることになり、さらに医学研究科、iPS細胞研究所、ウィルス・再生研究所等の協力講座の研究室に人間健康科学系専攻の修士学生として進学することが可能となります。

「先端リハビリテーション科学コース」に新設された医療ビッグデータ分野、医学物理学分野、臨床開発運営学分野では以下の展望を持っています。医療ビッグデータ分野は、医療ビッグデータ解析、臨床ゲノム解析に基づくゲノム医療およびビッグデータ医科学、臨床バイオIT等に精通する医療ビッグデータサイエンティスト人材を育成する分野であり、日本では初めての専門分野です。スーパーコンピュータを用いた人工知能技術の発展が目覚ましい中、医学・医療の知識のあるIT

人材の育成は、海外に比較して遅れているのが日本の現状であり、人間健康科学系専攻から、多くの優秀な人材が輩出されることが期待されます。

最後に、大変おめでとうございます。報告いたします。京都大学名誉教授の成宮周先生と坂口志文先生が昨年に文化功労者に選出されました。成宮先生と坂口先生は、益々のご活躍と後進のご指導をお願いする次第でございますが、さらに若い世代の芝蘭会会員の皆さまの大きな飛躍を祈念いたします。

平成29年度の受章者

文化功労者

成宮 周 (昭和48年卒)
京都大学名誉教授
京都大学医学研究科特任教授
京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター長

坂口 志文 (昭和51年卒)
大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学教授

秋の叙勲

瑞宝中綬章

長尾 卓夫 (昭和47年卒)
高岡病院長

臨床研究など報告

平成29年度 京大関係病院長協議会定例総会



「京大病院の現状」について報告を行う 稲垣病院長



松田秀一教授がコーディネーターとなり行われたパネルディスカッション

外から170名余りが参加しました。定例総会では、稲垣暢也病院長の開会挨拶、続いて、高折晃史副病院長より「京大病院の現状」について、平井豊博教授（呼吸器内科長）、辻川明孝教授（眼科長）、松村由美教授（医療安全管理部長）より新任者挨拶、小西靖彦教授（医学研究科附属医学教育推進センター長）より「臨床実習について」、黒田知宏教授より「個人情報保護について」報告が行われました。続いて、これからの臨床研究について、松田秀一教授（副病院長／整形外科長）より「医療法に基づく臨床研究中核病院の承認」、森田智視教授（医学統計生情報センター／臨床研究総合センター）データサイ

臨床試験の立案に関する グループワークを開催

京都大学医学部附属病院
臨床研究総合センター助教 角 栄里子

平成29年10月14日(土)に薬友会館で「臨床試験の立案演習」として、参加型のグループワークを実施しました。これは大学院教育コース「臨床研究」の合宿として実施され、43人という大勢の大学院生に参加いただきました。

午前中は臨床研究に関する講義を行い、午後からグループに分かれて与えられた課題に取り組みます。今年度は、二つの化合物「DNAウィルスに対する新規の抗ウィ

ルス薬」または「強力な鎮痛作用を有する疼痛抑制薬」について、どのような疾患を対象として臨床試験を行うのか、を題材にしました。これらの化合物は、実際に京都大学が主体となり臨床開発を計画中／実施中の化合物であり、良いアイデア

が得られれば、大学院生と共同して臨床開発を計画することもできます。大学院生はいずれかの化合物を選択し、6〜8人の六つのグループで、試験の目的・対象患者・

介入の方法・評価項目・試験デザインを考えます。今回は特に、臨床的に切実なリサーチ課題をたてるとに重点を置きました。既存薬で効果があるなら、新しい薬剤はどのようなケースを対象とするべきか？既存薬からのス

イッチングをどう行うのか？併用したらどうなるのか？既存薬がある場合、それを替わらずにプラセボを投与することは倫理的か？というような具体的な問題点が浮かび上がり、大学院生と各グループ担当の講師とで熱い議論を行いました。

3時間で回答をまとめ、各グループから立案した試験計画を発表してもらい、講評を行いました。実

講義は、臨床研究総合センターと医療疫学分野の教員が協力して行いました。何よりも、化合物について形態形成機構学の萩原正敏教授にご協力いただきました。講師の先生方、誠にありがとうございました。



化合物開発者からの講評



講師とグループワークのチューター

平成29年度京大病院臨床懇話会 3月4日に開催

平成29年度京大病院臨床懇話会を、平成30年3月4日(日)15時から芝蘭会館(稲盛ホール)で以下の通り開催いたします。本懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍されている医師の先生方と本院診療科長等との意見交換及び本院からの情報提供の場として開催しているものであり、今年で21回目となります。

当日は、「未来を拓く京大病院—ロボットテクノロジーの応用—」を全体テーマとした講演、パネルディスカッションを行うほか、新任教授の挨拶が行われます。

なお、本懇話会は、医療関係者とし、参加には事前申し込みが必要となりますので、総務課企画・法規掛(☎075-751-3005)までお問い合わせ願います。

日時：平成30年3月4日(日)15:00～17:40
場所：芝蘭会館(稲盛ホール)
総合司会：小池 薫(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科教授)
主催：京都大学医学部附属病院
後援：一般社団法人芝蘭会、京都府医師会、各地区医師会

次 第

1. 病院長挨拶 15:00～15:10(10分)
稲垣 暢也(京都大学医学部附属病院 院長／糖尿病・内分泌・栄養内科教授)
2. 出席者代表挨拶 15:10～15:15(5分)
齋藤 信雄(洛和会ヘルスケアシステム 洛和会東寺南病院名誉院長)
3. 新任教授紹介・挨拶 15:15～15:35(20分)
溝脇 尚志(京都大学医学部附属病院 放射線治療科教授)
平井 豊博(京都大学医学部附属病院 呼吸器内科教授)
辻川 明孝(京都大学医学部附属病院 眼科教授)
松村 由美(京都大学医学部附属病院 医療安全管理部教授)

4. 講演、パネルディスカッション 15:35～17:40(125分)
【全体テーマ】「未来を拓く京大病院—ロボットテクノロジーの応用—」

- 講演(45分)
司会：小池 薫(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科教授)
座長：尼川 龍一(日本バプテスト病院 院長)
講演①「手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使った泌尿器科手術の現状と評価」(15分)
小川 修(京都大学医学部附属病院 泌尿器科教授)
講演②「HALを用いた取り組みから拓く未来」(15分)
菊池 隆幸(京都大学医学部附属病院 脳神経外科助教)
講演③「ロボットテクノロジーで進化するケア～SaCoN」(15分)
山中 寛恵(京都大学医学部附属病院 看護部管理室副看護部長)

《休憩》 16:20～16:30(10分)

- パネルディスカッション(70分)
テーマ「京大病院における地域連携の展望」
座長：松田 秀一(京都大学医学部附属病院 副院長／整形外科教授)
パネリスト①妹尾 浩(京都大学医学部附属病院 消化器内科教授)
②河井 昌彦(京都大学医学部附属病院 小児科(新生児集中治療部) 病院教授)
③近藤 祥司(京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部准教授)
④若園 吉裕(社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院 院長)

- ※懇親会 17:50～18:50(懇話会終了後、山内ホールに移動し開催する)
挨拶 宮本 享(京都大学医学部附属病院 副病院長)
乾 杯 中安 顕(中安外科医院 院長)
締めの挨拶 松田 秀一(京都大学医学部附属病院 副院長)

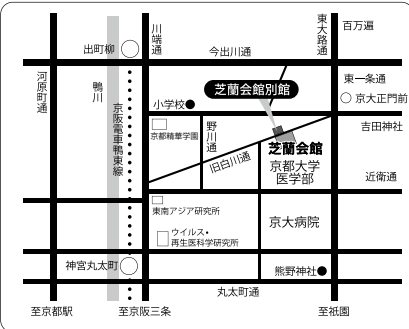


芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、
京都観光のご宿泊に、
芝蘭会館別館[国際交流会館]を
ご利用ください。

一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)
芝蘭会館別館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町11-1
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

レストラン【しらん】 Tel. 075-752-1027



芝蘭会館別館へのアクセス
■京都駅から
●D2乗場 市バス206系統「東山通北大路バスターミナル」行
「京大正門前」下車徒歩2分
●地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口3番、
市バス201系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩2分
■阪急河原町駅から
●出口6番 市バス201系統「百万遍・祇園」行、31系「統熊野・岩倉」
行「京大正門前」下車徒歩2分
■京阪出町柳駅から 徒歩15分
客室ご利用料金(税込)
シングル(18室) 定員1 6,800円
ツイン(3室) 定員2 12,700円(シングルユース10,400円)
デラックスツイン(1室) 定員2 15,000円(シングルユース12,700円)
●宿泊室(金室洋室)は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャック付き(wifiも利用可)です。
●芝蘭会館(金費納付者)は宿泊利用料金を、1,000円割引させていただきます。
●チェックインタイムは午後3時、チェックアウトタイムは午前10時となっております。
●キャンセルについては、3日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。
研修室・会議室ご利用料金(税込)
ご利用時間 9:00～12:00 13:00～17:00 18:00～22:00 超過料金
研修室1・2 定員60名 15,000円 18,400円 18,400円 4,600円
会議室B1 定員20名 9,800円 11,500円 11,500円 3,000円
和室1・2 定員10名 6,300円 8,000円 8,000円 2,300円

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科・
医学部 管理棟 1F 総務掛内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

KMYIA 4氏受賞

第10回校友会総会・講演会

KMS・FUND委員長
循環器内科学分野教授



木村 剛

賞が授与された後、講演
会と特別講演会に移りま
した。

平成29年10月7日医学
部芝蘭会館稲盛ホール・
山内ホールにおいて記念
すべき第10回校友会総
会・講演会が開催されま
した。総会では土井 超
校友会会長と上本伸二医
学研究科長・医学部長の
御挨拶の後、まず京都大
学医学部若手研究者優秀
論文賞(KMYIA)の
授賞式が行われました。

講演会は昨年同様、医
学研究科臨床部門と基礎
部門の学内教授それぞれ
1名に御講演をお願いす
るということで、今年は
臨床部門から婦人科学座
科学分野の万代昌紀教授
と基礎部門から高次脳科
学講座神経生物学分野
の伊佐 正教授を
お招きいたしました。

万代教授からは
「IT技術と産婦
人科診療」と題し
て御講演を頂戴し
ました。婦人科が
ん手術における最
初で最大の技術革
新は Wertheim
による広汎子宮全
摘術式の開発でし
たが Wertheim



KMYIA を受賞した 4 氏



特別講演を行う成宮名誉教授

平成28年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者

【基礎研究部門】

氏 名	現 所 属	論文投稿時の身分	論 文 題 目	掲 載 誌	掲載巻、頁、 年
石蔵友紀子	医学研究科 (機能微細形態学分野) 特定研究員	博士課程 医科学専攻 (機能微細形態学分野) 3回生	In Vitro Derivation and Propagation of Spermatogonial Stem Cell Activity from Mouse Pluripotent Stem Cell	Cell Reports	Vol.17(10), 2789-2804, 2016
小西 聡史	医学研究科 (呼吸器内科学分野) 客員研究員	博士課程 医学専攻 (麻酔科学分野) 4回生	Differential Involvement of the Npl4 Zinc Finger Domains of SHARPIN and HOIL-1L in Linear Ubiquitin Chain Assembly Complex- Mediated Cell Death Protection	Stem Cell Reports	Vo16, 18-25, 2016
清水 寛司	博士課程 (医学専攻) (循環器内科学分野) 4回生	博士課程 (医学専攻) (循環器内科学分野) 3回生	Initial Surgical Versus Conservative Strategies in Patients With Asymptomatic Severe Aortic Stenosis	Molecular and Cellular Biology	Vol.36(10), 1569-1583, 2016
高岡 沙織	医学部 医学科 (病態生物医学分野) 5回生	医学部 医学科 (病態生物医学分野) 3回生	Live imaging of TAK1 activation in Lewis lung carcinoma 3LL cells implanted into syngeneic mice and treated with polyI:C	Cancer Science	107, 644-652, 2016

(50 音順)

式手術、イメージガイド
下手術、シミュレーショ
ンによる手術教育などを
可能にし、より安全で効
果の高い治療として手術
の未来を根本的に変える
可能性があるとのお話で
した。

伊佐教授からは「機能
回復の脳科学」と題して
御講演を頂戴しました。
伊佐教授は霊長類におけ
る手指の巧緻運動の機能
回復機構を明らかにする
ための動物実験で、脊髄
固有ニューロンを遮断し
たまま脊髄損傷を行うと
巧緻運動の回復が阻害さ
れること、精密把握時の
脳活動の測定から機能回
復は段階的で回復のステ
ージに応じて皮質運動関
連領域の使われ方が異な
り普段は使われていなか
った場所が使われて機能
回復が進むこと、さらに
は脊髄損傷からの機能回
復時の側坐核の阻害は回
復してきた手指の巧緻運
動を顕著に障害すること
などを明らかにされまし
た。従来、「損傷した神
経細胞は再生しない」と
されておりましたが、この言葉は
しばしば「損傷した脳の
機能は回復しない」と読
み替えられてきたがこれ
は間違いで、確かに一部
を除いて成人の脳では神
経細胞の再生は起きない
けれども、残存する神経
細胞の可塑的变化で機能
を補うことは起こり得る
と述べられました。

特別講演会ではメディ
カルイノベーションセン
ター長の成宮 周名誉教
授から「創造する薬理学
」薬物を用いて解き明か
す生体の謎」と題して御
講演いただきました。
御講演は成宮先生が学
生時代に早石修先生の研
究室に入門された頃から

の御自身の研究生活を回
顧いただきました。自分
は大学院時代には大した
ことは出来なかったとお
っしゃられました。古
武弥四郎先生の書を引用
され「本も読まなければ
ならぬ。考えてみなければ
ならぬ。しかし、働く
こともより大切である。
凡人は働かなければなら
ぬ。働くことは天然に親
しむことである。天然を
見つめることである。こ
うして初めて天然が見え
てくるのである」という
ことで、いろいろなこ
とを考え抜いて研究し、
色々なことを見て、それ

から考えるという感じ
でタンパク質などに親し
んだ大学時代だったそう
です。その後、英国ウェ
ルカム研究所へ留学さ
れ、そこでジョン・ペイ
ン先生が蛇毒からアンギ
オテンシン転換酵素阻害
薬を開発するところを目
の当たりにされたことが
成宮先生にとって大きな
刺激となったそうです。

早石研に戻られて以降
は、プロスタグランジン
受容体クロン化により各
受容体選択的な薬物を創
製され、欠損マウスと選
択的薬物を用いて各プロ
スタグランジンと各受容
体の役割を明らかにする
という膨大な研究成果を
挙げられました。さらに
沼正作先生の「何をやっ
ても時間はたちますよ
」だっただけ、できるだけ
大きなことをしなさい」と
いう言葉に刺激された
そうですが、ボツリス
ス菌を用いて Rho の標
的蛋白として ROCK や
mDia を同定され細胞内
シグナル伝達が細胞反応
に変換されるメカニズム
を明らかにすると同時に
選択的 ROCK 阻害薬の
開発に繋がりました。
私は「くすりはサイエン
スを創り、サイエンスは

くすりを創る」をキーワ
ードに今も研究を続けて
おり創業に貢献したいと
思っています。今基礎
医学と生物学が一体化し
ている時代で、本心にヒ
トの病気にチャレンジす
る時代ですから皆さんの
チャレンジ精神に期待し
たい、というメッセージ
で成宮先生は御講演を締
められました。

第10回校友会総会・講
演会には、学部学生の御
家族をはじめ多くの皆様
に御参加いただきました
ことにあらためて御礼申
上げます。

3 クラブに校友会賞

バドミントン、ハンドボール、スキー

平成29年10月7日に開
催されました第10回京都
大学医学部校友会総会に
おきまして、第6回京都
大学医学部校友会賞の表
彰式を行いました。写真
真。

平成28年9月から平成
29年8月までの課外活動
報告書を、生活・課外活
動支援委員会で検討した
結果、今年度は
医学部バドミントン部、
医学部ハンドボール部、
医学部スキー部の3団体
に校友会土井超会長より
授与されました。医学部
バドミントン部は、「近
畿医歯薬バドミントン大
会」におきまして男子一
部リーグで優勝をし四連
覇という快挙を達成して
います。「近畿医
歯薬バドミントン
新人戦」では、男
子シングルス準優
勝、また「近畿東
海医科学学生バドミ
ントン大会」にお
きまして男子ダブルス優勝、男子
団体戦準優勝とい
う優秀な成績をお
さめております。

医学部ハンド
ボール部は、「西
日本医歯薬科学性
ハンドボール選手
権大会」におきま
して優勝という優
越した成績を達成
し、「長野県知事杯争
奪木島平石井スポー
ツリーグカップ」で
も、個人SG・ス
ーパー大回戦学生本
戦女子1位という優
秀な成績をおさめ
ています。

医学部スキー部は、「関
西医学部対抗スキー選
手権大会」におきま
して総合優勝とい
う輝かしい成績
をおさめ、個人女
子高目標を持ち又
それに熱心に取り組
み意欲的に目指す
京都大学医学部公
認団体を励まし支
援することを目的
として「京都大学
医学部校友会賞」を
募集いたしております。
どうぞ奮って御応募
ください。

(校友会 生活・課外活
動支援委員会委員長 本
村京子)



医学部ハンド
ボール部は、「西
日本医歯薬科学性
ハンドボール選手
権大会」におきま
して優勝という優
越した成績を達成
し、「長野県知事杯争
奪木島平石井スポー
ツリーグカップ」で
も、個人SG・ス
ーパー大回戦学生本
戦女子1位という優
秀な成績をおさめ
ています。

医学部ハンド
ボール部は、「西
日本医歯薬科学性
ハンドボール選手
権大会」におきま
して優勝という優
越した成績を達成
し、「長野県知事杯争
奪木島平石井スポー
ツリーグカップ」で
も、個人SG・ス
ーパー大回戦学生本
戦女子1位という優
秀な成績をおさめ
ています。

医学部ハンド
ボール部は、「西
日本医歯薬科学性
ハンドボール選手
権大会」におきま
して優勝という優
越した成績を達成
し、「長野県知事杯争
奪木島平石井スポー
ツリーグカップ」で
も、個人SG・ス
ーパー大回戦学生本
戦女子1位という優
秀な成績をおさめ
ています。

(校友会 生活・課外活
動支援委員会委員長 本
村京子)

西日本医科学生総合体育大会

水泳男子 総合6位入賞

第69回西日本医科学生総合体育大会は、山口大学が代表主幹校を務め、西日本中から44校が集まり、優勝を目指して覇を競いました。1万人以上の学生達が日頃の成果を存分に発揮し大会を盛り上げる中、京都大学も健闘を見せ、一年に一度の大舞台に花を咲かせました。

〔水泳部〕今年の水泳部は、大会のレベルが年々高騰する中、男子総合6位に入賞できました。チーム総力戦で戦うリレー種目では、400mメドレーリレー、200mフリーリレーでは決勝進出を果たし、800mフリーリレーにおいては、沖縄の屋外プールという過酷なレース環境下でありながら京都大学史上歴代1位のタイムの記録を残すことができました。個人種目でも、2名の表彰台を含む計6種目で決勝に進出し、大会を盛り上げました。

ともに日々の練習を乗り越えてきた仲間がレースで次々にベストを出していく姿は、個々のレベルによらず本当に素晴らしいものでした。来年に向けて、次の一年間も互いに切磋琢磨していきたいと思います。

他の部活は結果のみ掲載します。

〔サッカー部〕

- 1回戦 京都大学 3-1 川崎医科大学
2回戦 京都大学 0-1 大阪市立大学

〔準硬式野球部〕

- 1回戦 京都大学 0-15 藤田保健衛生大学

〔卓球部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 4-3 佐賀大学
2回戦 京都大学 4-0 山口大学
3回戦 京都大学 0-4 宮崎大学

女子団体

- 1回戦 京都大学 3-1 鹿児島大学
2回戦 京都大学 0-3 川崎医科大学

〔硬式テニス部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 5-0 鳥取大学
2回戦 京都大学 5-2 鹿児島大学
3回戦 京都大学 1-5 和歌山県立医科大学

女子団体

- 1回戦 京都大学 3-1 名古屋大学
2回戦 京都大学 0-4 香川大学

〔軟式テニス部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 5-0 三重大学
2回戦 京都大学 2-3 鳥取大学

女子団体

- 1回戦 京都大学 2-1 大阪市立大学
2回戦 京都大学 0-3 神戸大学

〔ラグビー部〕

- 1回戦 京都大学 0-16 鳥取大学

〔バレーボール部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 2-0 関西医科大学
2回戦 京都大学 0-2 滋賀医科大学

〔バドミントン部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 3-1 三重大学
2回戦 京都大学 0-3 高知大学

女子団体

- 1回戦 京都大学 1-2 琉球大学

〔ハンドボール部〕

決勝トーナメント進出

決勝トーナメント一回戦

- 京都大学 18-19 名古屋市立大学

〔バスケットボール部〕

男子団体

- 1回戦 京都大学 48-57 三重大学

〔ボート部〕

総合3位

支部だより

ミトコンドリアなどで講演



二つの講演と特別講演が行われた福井支部総会

ミトコンドリアの活性が高くなり、標的組織へ様々な角度から照射することで正常組織への線量を最小限にとどめることができ、またリアルタイムX線映像を元に、呼吸に伴って動くがん組織を追尾して照射する動体追尾照射を行うことが可能です。ただVero ADR1は照射範囲が比較的狭く広範囲への照射は不得手です。そこで「Vital BeamTM」という最新の装置を導入しました。こちらは広範囲の病変に正確に照射することができ、原発巣と転移巣の全てに同時に強度変調放射線治療を行うこともできます。最後に、先生方ががん治療のご相談を呼びかけ、講演を締めくくられました。

二つ目の講演は福井赤十字病院放射線科部長の坂本匡人先生による「高精度放射線治療が切り拓くがん治療の地平」と題されたものでした。放射線治療は多くのがんに対して有効性が認められており、がん治療における放射線治療の存在はとて大きく変わっています。福井赤十字病院では昨年6月から「Vero ADR1TM」という最新の放射線照射装置を稼働しています。こちらの照射装置では、治療を5方向に動かすことがで

き、標的組織へ様々な角度から照射することで正常組織への線量を最小限にとどめることができ、またリアルタイムX線映像を元に、呼吸に伴って動くがん組織を追尾して照射する動体追尾照射を行うことが可能です。ただVero ADR1は照射範囲が比較的狭く広範囲への照射は不得手です。そこで「Vital BeamTM」という最新の装置を導入しました。こちらは広範囲の病変に正確に照射することができ、原発巣と転移巣の全てに同時に強度変調放射線治療を行うこともできます。最後に、先生方ががん治療のご相談を呼びかけ、講演を締めくくられました。

た。そこで緑内障の合併症として白内障を患う患者に対してトラベクトルミを先に行うことで予後が改善したそうです。また2012年に承認された緑内障インプラント手術のために必要な強膜の提供を全国から斡旋するシステムを構築なさるなど、緑内障治療に大きく貢献なさっています。稲谷先生は研究方面でも

活躍なさっており、緑内障が発症する前に網膜の神経節細胞におけるミトコンドリアの軸索輸送が低下することを発見されました。またこの研究の中で、世界で初めて生理的条件下で神経軸索輸送を観察することに成功しました。この発見は緑内障視神経症を予測するのに役立つそうです。最後に、シンプルかつ効率的に生きることをモットーとした眼科学教室での活動を紹介なさり、スペシャルリポート育成の重要性を強調し講演を締めくくられました。

続いて、京都大学医学研究科細胞機能制御学分野教授の岩井一宏先生による『医学研究科・医学部の現状について』と題した本部報告が行われました。医学教育の国際標準に、多くの先生方が自己

準化に伴い本学においてもカリキュラムの見直し、MD研究者プログラムの導入、特色人試などの改革が行われていること、キャンパス・附属病院の施設の編成などについて説明なさいました。その後会場を移し集合写真撮影の後、懇親会が行われました。懇親会では和やかな雰囲気の中、多くの先生方が自己

紹介や近況報告をされ、様々な世代を交えご歓談なさっていました。我々学生にも多くの先生方が優しく話しかけてくださいました。最後になりましたが、このような素晴らしい機会に参加する機会をいただいたことに感謝の意をもって福井支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 西垣利彦)

【福井】

平成29年9月9日(土)、ホテルフジタ福井にて平成29年度芝蘭会福井支部総会が開催されました。

はじめに、野口正人先生による支部長あいさつ、物故会員黙祷、新入会員紹介が行われた後、議事を経て、支部会員による研究発表が行われました。

一つ目の講演は福井大学医学部分子遺伝学分野教授の菅井学先生による『ミトコンドリアによる活性化B細胞分化決定機構』と題されたものでし

た。B細胞は様々な病原体に対する免疫を担っており、形質細胞に分化していく過程でクラススイッチ組み換えを受けるものもあります。クラススイッチ組み換えの制御は転写因子のレベルでは明らかに不十分ですが、その転写因子の発現を決定づけている分子は分かっています。菅井先生はそれを探る中でミトコンドリアの量とその活性に行き着いたそうです。そこでFACS解析と呼ばれる手法を用いて調べたところ、ミトコ

二つ目の講演は福井赤十字病院放射線科部長の坂本匡人先生による「高精度放射線治療が切り拓くがん治療の地平」と題されたものでした。放射線治療は多くのがんに対して有効性が認められており、がん治療における放射線治療の存在はとて大きく変わっています。福井赤十字病院では昨年6月から「Vero ADR1TM」という最新の放射線照射装置を稼働しています。こちらの照射装置では、治療を5方向に動かすことがで

き、標的組織へ様々な角度から照射することで正常組織への線量を最小限にとどめることができ、またリアルタイムX線映像を元に、呼吸に伴って動くがん組織を追尾して照射する動体追尾照射を行うことが可能です。ただVero ADR1は照射範囲が比較的狭く広範囲への照射は不得手です。そこで「Vital BeamTM」という最新の装置を導入しました。こちらは広範囲の病変に正確に照射することができ、原発巣と転移巣の全てに同時に強度変調放射線治療を行うこともできます。最後に、先生方ががん治療のご相談を呼びかけ、講演を締めくくられました。

【愛媛】

平成29年9月30日(土)、年度芝蘭会愛媛支部総会が開催されました。

初めに、門田和紀先生

血液内科の現状、未来 説明



高折先生の特別講演が行われた愛媛支部総会

による支部長あいさつ、物故会員黙祷が行われた後、京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学教授で、京都大学医学部附属病院副院長である高折晃史先生による特別講演が行われました。

講演の演題は「血液内科の現状と未来―京都大学血液・腫瘍内科の役割と未来―」でした。初めに血液内科とはどのような科であるかの説明があり、血液内科は白血病やリンパ腫、貧血、出血傾向、血液感染症を主に扱う診療科であり、血液内科の専門医は全国の血液内科で医師の数が足りていない現状であり、京都血液内科専門医の数が全国的に見ても多いのですが京大関連病院も例外ではなく、非常

勤医師を派遣したりしているとのことでした。次に血液内科の白血病に対する治療、特に抗がん剤治療についての説明がありました。CMLが発見されてから分子標的薬であるチロシンキナーゼ阻害薬が開発されるまで約150年かかったのに対し、1980年に発見されたHIVの治療法のHAART療法は約15年で開発されました。また多発性骨髄腫に対してはここ10年で様々な新薬が開発されており、血液内科は臨床が進み、新薬の開発が続々とされています。続いて京大病院の血液内科についての説明があり、京大血液内科の使命は大きいと締めくくられました。

次に京大病院の人事、施設、病棟の改修や医学部の変遷など京大病院、医学部の現状について高折先生から説明があり講演の終了となりました。その後、集合写真を撮影した後に懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中、先生方が各自自己紹介や近況報告をされ、様々な世代を交えご歓談されていました。

我々学生にも多くの先生方が優しく話しかけてくださいました。最後になりましたが、このような素晴らしい機会に参加する機会をいただいたことに感謝の意をもって愛媛支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：5回生 井上大吉)

U

医学部についてさまざまに紹介が行われました。最後に、医師は「強者に対してまちがい指摘できる人、弱者に対して優しい人」が求められているという、医師を志す若者へのメッセージを残してご講演を終えられました。

フォーラムでは、高校生から積極的な質問がなされ、屋外の台風で荒れた天候とは異なりムード溢れる素晴らしい会でした。京都大学で現在学んでいる僕自身にとっても有意義なものになりました。

生から積極的な質問がなされ、屋外の台風で荒れた天候とは異なりムード溢れる素晴らしい会でした。京都大学で現在学んでいる僕自身にとっても有意義なものになりました。

最後になりましたがこのような貴重な会にお招きくださったことに感謝の意をもって芝蘭会徳島支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責：3回生 公本一希)

々へ芝蘭会員また
の名前をかたつて、
番号等）を聞き出
合わせの電話があ
務局
075-752-4015

くわくわもご注意
いたします。
員の方から住所変
り、事務局からは
おりません。ご不

芝蘭会
TEL: 075-751-271

TEL : 075-751-2713 FAX : 075-752-4015

医学研究科の整備など紹介



妹尾先生の特別講演があった奈良支部総会

【奈良】 平成29年8月19日（土）、奈良ホテル 大和の間に、平成29年度芝蘭会奈良支部総会が開催されました。

岡村隆仁先生司会のもとで、まず、奈良支部長でいらっしゃる松村忠史先生よりあいさつがあったあと、総会が開かれ、お亡くなりになった先生方に黙祷をささげ、その後で会計報告、次回の総会についての確認が行われました。

次に京都大学大学院医学研究科消化器内科学教授でいらっしゃる妹尾浩先生による特別講演が行われました。

講演は、まず京都大学医学研究科における人事往来についてのお話から始まりました。次に同じく京都大学医学研究科におけるハード面の整備、教育研究体制の整備についてお話しされました。ハード面の整備については、iPS細胞研究棟が三つ設立されたというこ

お願いをされました。講演終了後には、懇親会が行われました。懇親会の途中では参加された先生方が順番に改めて自己紹介をし、近況報告をされました。恐縮ながら、学生である私たちも自己紹介と近況報告をさせてもらい、その際に先生方に大学での部活動や出身高校などを聞かれるなどして話がだいに盛り上がりました。

また、研修医に関する話や、病院選びの話など

もしていただいて非常にためになるお話を聞くこともでき、とても和やかな雰囲気です。加えることができませんでした。こうして宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも開きとなりました。

最後にはなりました。が、このような会にお招きくださったことへの感謝の意をもって奈良支部の報告を終わらせていただきます。

府が始めた、新たな時代に対応した福祉の提供にジョインについて説明されました。その中で、これまでの、高齢者、障害者、児童というように、範囲を絞ったうえでの地域医療のアプローチではニーズの多様化に対応しきれないことや、人材確保が難しいことを指摘され、地域サービスの包括的な提供の仕組みについて詳しく話していただきました。

さらに医療の目的の一つである社会復帰について重点を置いて、これからの地域包括ケアシステムの構築が必要であること、つまり、高齢者だけでなく住民全体のためのシステム、住まいや地域の特性と社会の変化に適したシステムを構築しなければならぬということとを熱弁されました。先生のお話はとても分かりやすく、私たち学生にとっても非常に面白いものでした。

講演終了後にはロビーにて写真撮影を行い、その後懇親会が行われました。懇親会の中では、たくさん先生方が私たち学生にも話しかけてくださり、現在の大学の様子や、新しくなったカリキュラムなどについて興味を持たれ、昔の大学の様子についても話していただきました。

非常にためになるお話も多く聞くことができ、とても和やかな雰囲気でした。

最後にになりましたが、このような会にお招きくださったことへの感謝の意をもって滋賀支部の報告を終わらせていただきます。

（文責：1回生 森田 瑛）

地域包括ケアと医療で熱弁



慶応大病院の三浦教授の特別講演が行われた滋賀支部総会

報告が行われました。その後、慶應義塾大学病院臨床研究センター教授でいらっしゃる三浦公嗣先生より、「地域包括ケアとこれからの医療」についての特別講演が行われました。

最初に三浦先生は、職業別新規求人倍率の推移のデータから、看護、介護分野における人手が不足していることと、離職率が高い現状について提示され、平成27年より政

府が始めた、新たな時代に対応した福祉の提供にジョインについて説明されました。その中で、これまでの、高齢者、障害者、児童というように、範囲を絞ったうえでの地域医療のアプローチではニーズの多様化に対応しきれないことや、人材確保が難しいことを指摘され、地域サービスの包括的な提供の仕組みについて詳しく話していただきました。

さらに医療の目的の一つである社会復帰について重点を置いて、これからの地域包括ケアシステムの構築が必要であること、つまり、高齢者だけでなく住民全体のためのシステム、住まいや地域の特性と社会の変化に適したシステムを構築しなければならぬということとを熱弁されました。先生のお話はとても分かりやすく、私たち学生にとっても非常に面白いものでした。

講演終了後にはロビーにて写真撮影を行い、その後懇親会が行われました。懇親会の中では、たくさん先生方が私たち学生にも話しかけてくださり、現在の大学の様子や、新しくなったカリキュラムなどについて興味を持たれ、昔の大学の様子についても話していただきました。

非常にためになるお話も多く聞くことができ、とても和やかな雰囲気でした。

（文責：1回生 森田 瑛）

【滋賀】

平成29年10月21日（土）、

ホテルポストンプラザ草津にて、平成29年度芝蘭会滋賀支部総会が開催されました。はじめに、滋賀支部長でいらっしゃる折田雄一先生よりあいさつがあったあと、会計報告、監査報告、そして平成29年度会計予算について

の承認が行われ、次に京都大学医学部附属病院の副病院長でいらっしゃる松田秀一教授より大学

報告が行われました。その後、慶應義塾大学病院臨床研究センター教授でいらっしゃる三浦公嗣先生より、「地域包括ケアとこれからの医療」についての特別講演が行われました。

最初に三浦先生は、職業別新規求人倍率の推移のデータから、看護、介護分野における人手が不足していることと、離職率が高い現状について提示され、平成27年より政

府が始めた、新たな時代に対応した福祉の提供にジョインについて説明されました。その中で、これまでの、高齢者、障害者、児童というように、範囲を絞ったうえでの地域医療のアプローチではニーズの多様化に対応しきれないことや、人材確保が難しいことを指摘され、地域サービスの包括的な提供の仕組みについて詳しく話していただきました。

さらに医療の目的の一つである社会復帰について重点を置いて、これからの地域包括ケアシステムの構築が必要であること、つまり、高齢者だけでなく住民全体のためのシステム、住まいや地域の特性と社会の変化に適したシステムを構築しなければならぬということとを熱弁されました。先生のお話はとても分かりやすく、私たち学生にとっても非常に面白いものでした。

講演終了後にはロビーにて写真撮影を行い、その後懇親会が行われました。懇親会の中では、たくさん先生方が私たち学生にも話しかけてくださり、現在の大学の様子や、新しくなったカリキュラムなどについて興味を持たれ、昔の大学の様子についても話していただきました。

非常にためになるお話も多く聞くことができ、とても和やかな雰囲気でした。

（文責：1回生 森田 瑛）

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容			
H29.8.31	古田 貴寛	辞任	高次脳形態学准教授より大阪大学講師へ	H29.10.1	松橋 眞生 採用 医学研究科特定准教授より健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定准教授へ
H29.8.31	川崎 洋平	辞任	薬剤疫学特定講師より千葉大学准教授へ	H29.10.1	高折 恭一 採用 医学研究科特定准教授より健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定准教授へ
H29.9.1	住吉 真治	採用	熊本大学医学部附属病院病理部より病理診断科講師へ	H29.10.15	麻生 俊彦 辞任 臨床脳生理学助教より精神科神経科特定講師へ
H29.9.30	高木 康志	辞任	脳神経外科学准教授より徳島大学医学部教授へ	H29.10.31	日置 寛之 辞任 高次脳形態学助教より順天堂大学准教授へ
H29.10.1	堀江 昭史	昇任	婦人科学・産科学助教より同講師へ	H29.11.1	竹内 正人 採用 薬剤疫学特定准教授より同准教授へ
				H29.12.1	岡本 和也 昇任 医療情報企画部講師より同准教授へ

会 員 訃 報 （敬称略）

水川 勇	昭和 15 年卒		ご逝去	岡本 林平	昭和 30 年卒	平成 29 年 9 月 13 日	ご逝去	青木 純	昭和 54 年卒	平成 29 年 9 月 12 日	ご逝去
米田英一郎	昭和 17 年卒	平成 29 年 9 月 27 日	ご逝去	村山 玲子	昭和 32 年卒	平成 29 年 3 月 1 日	ご逝去	中野 智	昭和 57 年卒	平成 29 年 4 月	ご逝去
中野 裕	昭和 22 年卒	平成 29 年 10 月 26 日	ご逝去	安間 力	昭和 32 年卒	平成 29 年 11 月 25 日	ご逝去	妹尾あさゑ	教室会員 病理学	平成 29 年 10 月 5 日	ご逝去
尾崎 良克	昭和 23 年卒	平成 29 年 1 月 22 日	ご逝去	平野 実	昭和 32 年卒	平成 29 年 12 月 19 日	ご逝去	寺田由紀夫	教室会員 内科2	平成 28 年 9 月 11 日	ご逝去
新谷 浩	昭和 23 年卒	平成 24 年 1 月 2 日	ご逝去	山崎 英樹	昭和 32 年卒	平成 29 年 10 月 11 日	ご逝去	橋本 友久	教室会員 内科3	平成 29 年 8 月 10 日	ご逝去
安藤 協三	昭和 24 年卒	平成 29 年 7 月 23 日	ご逝去	西辻 和馬	昭和 33 年卒	平成 29 年 9 月	ご逝去	畑尾 正彦	教室会員 外科	平成 29 年 9 月 8 日	ご逝去
翠川 修	昭和 24 年卒	平成 29 年 11 月 6 日	ご逝去	野村 純一	昭和 34 年卒	平成 29 年 9 月 5 日	ご逝去	播岡 徳也	教室会員 麻酔学	平成 29 年 5 月 18 日	ご逝去
小川泰次郎	昭和 25 年卒	平成 28 年 12 月 10 日	ご逝去	福井 有公	昭和 36 年卒	平成 29 年 9 月 21 日	ご逝去	飴谷 敏男	教室会員 脳神経外科	平成 29 年 7 月 5 日	ご逝去
釜本 安敏	昭和 27 年卒	平成 29 年 4 月 29 日	ご逝去	菅井 進	昭和 38 年卒	平成 28 年 10 月 19 日	ご逝去	河野 博臣	教室会員 胸部研	平成 15 年 8 月 20 日	ご逝去
尾藤 敏夫	昭和 27 年卒	平成 28 年 12 月 27 日	ご逝去	山田 秩	昭和 38 年卒	平成 29 年 11 月 5 日	ご逝去	安井 幸彦	教室会員 高次脳形態学	平成 29 年 3 月 28 日	ご逝去
宮岡 輝夫	昭和 28 年卒	平成 27 年 5 月 16 日	ご逝去	淡河 秀光	昭和 38 年卒	平成 29 年 1 月 19 日	ご逝去				
小河 一夫	昭和 29 年卒	平成 22 年 1 月 8 日	ご逝去	井田 憲司	昭和 51 年卒	平成 29 年 9 月 23 日	ご逝去				

謹んでご冥福をお祈りいたします。

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会でご決定させていただきます。

●事務局から●

平成 17 年 4 月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便または FAX により事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）

芝蘭会報編集委員会 委員長 高折晃史 委員 斎藤信雄、中村保幸、山田圭介、園部誠、松村由美、阿部恵、諫田淳也	芝蘭会報誌部 顧問 高折晃史 部員 高屋龍生、西川裕太、中田愛（以上6回生）梅本大地、井上大志、菅原聡真、朴剛史、蔡嗣錡（以上5回生）吉平智博、池尻憲紀（以上4回生）加古敦也、松本一希（以上3回生）谷本将崇、西垣利彦、西村健太、小野謙騎（以上2回生）原明弘、森田瑛、秋宗俊久（以上1回生）	芝蘭会事務局 事務局長 山田 均 総務課長 秋山和美 管理課長 浜崎康博
--	--	---